

にいかした

北から南から



あ。」と思わずにはいられない。

用を終え、図書館をあとにしようとして先程の本の紹介コーナー”の前を通った。館長メッセージのついた本がなくなっている。早速借りられたのだ。ごはん食べるのを忘れて読みふける様子が想像できる。そんな本に出合える事も幸せである。県内のあちこちに、楽しい本の世界と出合う人がふえていく。今、図書館が面白い。

(くらさわ はるよ・創作布花教室主宰)

〈スイスで想う〉

子どもを育む

共同の理念

長崎 明

スイスの鉄道の駅には殆どプラットホームがない。昇降用のステップが地面すれすれのところまで下りていて、年寄りでも子どもで

もそんなに無理しなくても昇り降りができる。身体の不自由な人や大きな荷物を持った人がいると、回りの人達が誰かれとなく手を貸してくれる。お互いがお互いを認め合い助け合うという社会通念が子どもの頃から仕付けられているように見える。

発車時間がプラットホームごとに掲示されていて、時間が来るとアナウンスもなく、ベルも鳴らないのにするすると発車する。不慣れた日本人の旅行客は大騒ぎだが、あちらの人達は平気なもので、少し早目に乗り込んで談笑しながら発車を待っている。切符は駅の窓口で買うのが普通だが列車の中でも買うことができる。発車するとすぐに車掌が回ってきて、割引切符でも往復切符でも車内で売ってくれる。駅構内もプラットホームも乗降客の出入りが自由で切符を切ったり集めたりということを全くやらない。発車すると車掌が回ってきて、乗車したばかりの人をちゃんと見分けて検札するから、無賃乗車は絶対出来ない。万一無賃乗車が見つかったら、ものす



高い罰金を取られるそうである。

スイスでも携帯電話が普及しはじめたよう
で、駅の待合室や路上で使っているのはしば
しば見かけたが、列車やバスの中で使ってい
るのを見たことがない。「携帯電話をご遠慮
下さい」との車内放送も聞いたことがない。
使っているのはビジネスマン風の人が大部分
で、子ども達がおもちゃにしているのは日本
だけではなからうか。山頂の展望台で「今お
れ達は〇〇にいるよ」と大声を張りあげ、家
族と交信しているらしい日本人がいたが、あ
ちらの人々にはどのように映っただろうか。

ペットの扱ひも、他人に迷惑をかけない点
で徹底しているようである。ペットといたっ
ても山に連れてくるのは犬に限られているよう
だが、列車やバスの中にもごく普通にさせて
いる。犬も馴れたもので、椅子の下などの隙
間にうずくまって静かにしている。大抵の場
所は紐付きが義務つけられていて、飼い主も
犬も楽ではなさそうである。街を散歩する時
も紐付きはもちろん、必ず糞を片付けねばな

らない。糞を捨てる箱があちこちに置いてあ
るのには感心させられた。

子ども達も、お互いに迷惑をかけない、お
互いを思いやるという豊かな人間性・協調性
にあふれているのに驚かされる。田舎道をバ
スで走っていた時、突然バスの直前でバイク
と人が衝突したことがあった。我々日本人は
おろおろするだけだったが、スイスの人たち
全員がバスから飛び出して、倒れた人を手当
する人、救急車を呼びに電話連絡に走る人、
バイクを道端に寄せる人など、直ちに手分け
して救助に当たった。中でも、十才ばかりの
子どもが、向こうから来た車を誘導して、交
通整理を始めたのに感嘆させられた。とっさ
の際に、大人と一緒に子どもがそういう役割
を果せるのは、訓練の成果ばかりではなく、
国・地域・学校・家庭が一体となって、未来
をになう子どもを育む共同の理念を確固とし
て共有していることの証左であろうと羨まし
くなった。

(ながさき あきら・研究所理事長)